

基本目標：V 安心づくり 分野テーマ：V-1 誰もが役割をもち活躍できるまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
保健福祉課	介護・福祉分野の担 い手の確保	○医療や介護、保健分野の連携による担い 手となる人材確保を進めます。 ○有償ボランティアを活用し、地域内での 福祉人材の確保を行います。 ○自立支援協議会、地域ケア会議等での状 況把握、課題解決に向けた取組を行いま す。	—	—	—	—	—	○地域ケア会議を4回開催 し、地域課題の把握及び解決 に向けた協議を行う。	●地域ケア会議を4回開催し、個別 課題の解決に向けた協議を行った。 地域課題の抽出まではなかなかいけ れていないのが現状。
保健福祉課	地域での支え合い・ 助け合いの促進	○地域包括ケアシステムの推進や地域支え 合い協議体の開催など、支え合い・助け合 いの仕組みづくりと場づくりを行います。 ○民生委員・児童委員や自治会、当事者団 体等の活動の活性化を推進し、関係機関と の連携強化や福祉ニーズの把握、支援が必 要な方の早期発見と的確な福祉サービスの 提供を推進します。 ○ボランティアセンターの機能強化や、地 域のために活動している有志団体の取組を 推進します。 ○認知症サポーター養成講座の推進など、 認知症の方が地域で安心して暮らせる取組 を推進します。	地域支え合い協 議体の開催（単 年度）	各自治体1回	0回	各自治体1回以上	★	○内子、内子東、大瀬、五十 崎、小田自治センターにて地 域支え合い協議体を開催し、 地域の助け合い活動の状況確 認や生活課題解決に向けた意 見交換を行う。 ○介護施設等職員及び食生活 改善推進委員を対象にした認 知症サポーター養成講座を1 回ずつ実施する。 ○チームオレンジ立ち上げに 向け、ステップアップ講座を 1回実施する。	●生活支援コーディネーター（社協 委託）と連携をとりながら、地域資 源の情報収集、生活課題の共有など を実施。支え合い協議体の開催はで きなかったが、来年度体制の見直し を図っていくため、福祉推進企画長 瀬氏と2回協議を行った。 ●介護施設等職員及び食生活改善推 進委員を対象にした認知症サポー ター養成講座を1回ずつ実施した。 ●ステップアップ講座を1回実施 し、チームオレンジを立ち上げた。
			認知症サポー ター養成講座 （単年度）	1回	2回	2回以上	★		
保健福祉課	高齢者や障がい者の 社会参加・活躍を推 進	○就労支援事業所との連携やシルバー人材 センターの活用などにより、高齢者や障が い者の社会参加・活躍を促します。 ○自宅にこもりがちな高齢者等が集う場の 創出を図ります。 ○障がいのある方が自立して住み慣れた地 域で暮らせるよう、町内に「障がい者グ ループホーム」の新設に向けた社会福祉法 人等との協議をすすめます。	障がい者グルー プホームの設置	0カ所	1カ所	1カ所	★	○いきいきサロンが継続して 開催出来るよう社会福祉協議 会、自治会、民生児童委員協 議会等と情報共有し取組を推 進する。 ○障がい者グループホームに ついて、新設を計画している 社会福祉法人等へ事業開始で きるよう取組を支援する。	●いきいきサロン開催数は37カ所う ち2カ所は自主活動※補助なし（前 年比△1）。参加者減により減少傾 向。 ●宗友福祉会が、R8.4月に五十崎地 区にグループホームを開設。 障がい者GH2棟：定員各7名 短期入所事業：定員各1名 ※男女別棟

基本目標：V安心づくり 分野テーマ：V-2 健康で安心して暮らせるまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
保健福祉課	健（検）診受診率の 向上	○待ち時間の短縮や送迎の周知など、よりスムーズに受診できる受診環境を整え利便性を高めます。 ○申し込み方法や窓口を増やすとともに、勧奨・再勧奨を積極的に実施し、啓発に努めます。 ○ICTを活用し、インセンティブを付与することなど楽しみながら気軽に健（検）診を受けるきっかけづくりに取り組みます。	特定健康診査受診率	39.0%	40.8% （2月受付まで）	60.0%	★	○受診率向上のため「意向調査」を実施し受診につなげる。 ○直営の健診申し込みコールセンターを開設し、丁寧な対応や受診勧奨に努める。 ○ICTにより受診のきっかけづくりをする。 （愛媛県健康アプリkencom活用）	●コールセンター開設、Web予約、意向調査、ICT/愛媛県健康アプリKencomを活用したインセンティブの付与、未受診者への個別受診勧奨、寄附講座専任教員による啓発などにより、受診率の向上に努めた。 ●無料対象者への受診勧奨通知により、5がん検診の受診率の向上に努めた。 ●子宮頸がん・乳がん検診の無料クーポン券の発行により、若年層の受診率の向上に努めた。 ●新規事業として、がん治療に係るウィッグ等購入費助成交付事業（5件）を開始した。
			大腸がん検診受診率	19.2%	24.3% （令和7年度）	25.0%	★		
保健福祉課	健康意識の底上げ	○健診結果説明会を通じて自身の健康状態把握ができることを支援します。 ○全世代が実施しやすいウォーキング教室などの開催により、運動の動機付けを図ります。 ○関係機関や民間事業者と連携し、日頃からの運動の習慣化を促進します。 ○健康促進の取り組みの自主化・継続を図るため支援を行います。 ○これまでの男性の料理教室のほか、新たなつながりのもてる場づくりなど男性向けの活動支援を行います。 ○家庭訪問や相談事業をタイムリーに実施し心と体の健康保持増進に努めます。 ○各課事業において、自殺対策の視点を持って推進します。	減塩をいつも心がけている人の割合	37.7%	36.4%	50.0%	★	○集団健診受診者に対し【尿ナトリウム比測定】を実施し、効果的な減塩指導により、『いつも塩分を控えた食事を心がけている』と答える人を増やす。 （R6年度36.1%） ○運動の自主活動グループの立ち上げと支援の継続。 ○Inbodyを活用し、体成分分析に基づき保健指導を実施する。（より効果的な介入となるよう事業評価に取り入れる）	●健診会場にて尿ナトリウム比測定を実施し、減塩指導など高血圧重症化予防を図った。 ●自主活動グループの活動支援に努めた。 ●新たな取り組みとして、体成分分析装置InBodyを活用した保健指導を実施した。 ●寄附講座専任教員による地域健康教室を地域へ出向き開催したほか、保健師等との勉強会、脂質異常症予防教室を実施した。

基本目標：Ⅴ安心づくり 分野テーマ：Ⅴ-2 健康で安心して暮らせるまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
保健福祉課	医師・看護師等医療 人材の確保	○愛媛県や愛媛大学医学部、ほか医療機関との連携により、町内への医師・看護師確保について検討します。 ○医業承継バンクや医師のマッチングなど、開業医への支援を検討します。	—	—	—	—	—	○愛媛県八幡浜・大洲構想区域地域医療構想調整会議や会議内に設置する救急医療体制に関するワーキンググループで協議を行う。	●大洲喜多医療機能最適化検討会議で協議を行った。 ●愛媛県八幡浜・大洲構想区域地域医療構想調整会議や救急委員会で協議を行った。
保健福祉課	医療の機能強化、機能分化	○かかりつけ医との連携や、医療機関の役割・機能を明確化・最適化します。 ○オンライン診療に向けた医療体制の整備や情報連携システムの活用など、ICTを用いた医療体制の強化を医療機関と協議を進めながら推進します。	—	—	—	—	—	○愛媛県八幡浜・大洲構想区域地域医療構想調整会議や会議内に設置する救急医療体制に関するワーキンググループで協議を行う。	●大洲喜多医療機能最適化検討会議で協議を行った。 ●愛媛県八幡浜・大洲構想区域地域医療構想調整会議や救急委員会で協議を行った。
保健福祉課	救急医療体制の確保	○近隣市町等との連携による常時及び大規模災害時における救急医療体制の強化を行います。	—	—	—	—	—	○愛媛県八幡浜・大洲構想区域地域医療構想調整会議や会議内に設置する救急医療体制に関するワーキンググループで協議を行う。 ○災害時医療機関等通信連絡訓練へ参加する。	●大洲喜多医療機能最適化検討会議で協議を行った。 ●愛媛県八幡浜・大洲構想区域地域医療構想調整会議や救急委員会で協議を行った。 ●災害時医療機関等通信連絡訓練へ参加した。

基本目標：V安心づくり 分野テーマ：V-3 みんなで守り、誰一人取り残さないまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
総務課	地域における防災意識の醸成	○自主防災組織の活動支援や防災士の取得推進と取得後の活躍の場の創出に取り組みます。 ○町広報誌に防災情報を掲載するとともに、地域への出前講座、防災学習、防災訓練、避難訓練等を実施し、住民の防災意識、対応力の向上を図ります。 ○ハザードマップ更新と周知・活用を促進します。	防災学習会等の参加人数（単年度）	100人	535	600人	★	○危機管理監による各講習会・訓練での指導、各組織への活動助言等 ○防災士・リーダー防災士育成 ○ハザードマップ（追加指定箇所・中小河川浸水想定区域の追記）	●自主防災組織、学校、社協などの主催による防災講習会等での講師（危機管理監）派遣 講習会等の開催実績（自主防災組織8回376人、学校4回115人、社協2回30人、その他1回14人） ●防災士の養成 ●ハザードマップ23図郭を作成、該当地域に配布するとともに、町HPで公表）
自治・学習課	地域における防災意識の醸成	○自主防災組織の活動支援や防災士の取得推進と取得後の活躍の場の創出に取り組みます。	—	—	—	—	—	○各自治センター管内自主防災連絡会の支援 ○総務課との連携による各種情報提供	●各自治センターにおいて自主防災組織連絡会を開催した。
総務課	誰一人取り残さない防災ネットワークの構築	○情報伝達手段（メール配信、一斉放送など）を充実させるとともに、安否確認の仕組みづくりや体制整備を行います。 ○町内企業や事業所との防災協定締結や支援体制を強化します。併せて多様な関係団体と連携・協働を推進します。	個別避難計画の策定者数（累計）	51人	413	700人	★	○特に支援の必要な在宅の要配慮者への介護知見のある事業者が主となる計画策定の着手	●小田地区及び五十崎地区の対象者へ個別郵送して取りまとめた。 小田地区対象者386人、提出177人45.8% 五十崎地区対象者577人、218人37.8% ●各福祉事業所への個別避難計画策定委託 作成実績 18件
総務課	実情に応じた計画の見直しと実効性のあるマニュアルの策定	○防災に関する計画の見直し及び策定と、住民による住民のためのマニュアルの作成を推進します。 ○実効性のある災害対応、だれでもできる発災時TODOリストを作成します。	—	—	—	—	—	○各種計画等の見直し（随時改定） ○避難所ごとの運営マニュアルの作成推進	●町避難指示等の判断・伝達マニュアルを更新、町HPで公表した。 ●避難所運営マニュアル作成のための研修会を実施 1 自主防災組織で作成

基本目標：V安心づくり 分野テーマ：V-3 みんなで守り、誰一人取り残さないまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
総務課	安心できる避難所づくりと防災拠点の強化	○多様性を尊重した避難所の快適性向上を図ります。 ○孤立を見越した避難所・備蓄品の充実を図ります。 ○備蓄品の充実と分散化に取り組みます。 ○町職員の意識向上を図るため、定期的な学習会・訓練等を実施します。 ○災害対策本部室や危機管理センターなど専用の常設スペース設置を検討します。	民間との防災協定数（累計）	26件	30件	50件	★	○備蓄品の拡充 ○指定避難所管理者へ分散備蓄への協力呼びかけ	●備蓄品購入（携帯トイレ10,000回分、保存食2,000食、保存水3,600本、毛布400枚） ●民間事業者との防災協定締結4件（コメリ、大井産業、アケイオ、トラック協会） ●町職員の意識向上を図るための取り組みは未実施
			備蓄箇所数（累計）	4カ所	12カ所	8カ所	★		
自治・学習課	安心できる避難所づくりと防災拠点の強化	○多様性を尊重した避難所の快適性向上を図ります。 ○孤立を見越した避難所・備蓄品の充実を図ります。 ○備蓄品の充実と分散化に取り組みます。	自主防災組織と連携した地域づくり事業の活動支援（単年度）	7事業	15事業	20事業	一	○自主防災組織と連携し地域づくり事業費補助金の活用支援 ○内子運動公園の避難所としての活用	●自主防災組織と連携した地域づくり事業費補助金15件実施
総務課	未来ある消防団活動の推進と持続可能な消防設備の管理	○地域防災力の強化を図るため、女性団員も含めた消防団員の加入促進を図ります。 ○消防団組織や活動内容を見直します。 ○消防団組織と連携し実効性のある訓練を計画します。 ○自主防災組織との連携に向けた支援を行います。 ○消防水利の維持管理や消防車両・消防詰所、消防備品の整備と施設・資機材の整備、更新を行います。	消防団員数の維持（単年度）	736人	716人	736人	★	○消防小型ポンプの更新（天神1部、大瀬4部） ○消防車庫詰所の更新（小田3部、田渡2部） ○資機材の整備（ヘッドライトほか） ○団員の安定的確保（機能別団員導入）	●消防小型ポンプの更新（天神1部、大瀬4部） ●消防車庫詰所の更新（小田3部、田渡2部） ●ヘッドライトの支給（250個） ●消防団0Bを中心に機能別消防団員の募集を広報した。 機能別消防団員数9人

令和8年度 第1回内子町まち・ひと・しごと創生推進会議での主な意見等

基本目標	V 安心づくり
分野テーマ	V-1 誰もが役割をもち活躍できるまち V-2 健康で安心して暮らせるまち V-3 みんなで守り、誰一人取り残さないまち
意見等	・第1次産業に従事する高齢者等は、現役で頑張っておられるが、そうでない元気な高齢者等を第1次産業の人手不足に活用できるようなしくみ・マッチングを農林振興課等と連携しながら取り組んだらどうか。 ・大洲市のサロン事業には、各地区社協が補助金を出しているが、内子町はないのか。また、お世話人の確保はできているのか。 ・災害時の要支援者名簿について、各自治会や自主防災会に伺ったところ、古いものしかない、存在すら知らない、とのことだった。内子町の現状では、情報提供に同意している者の割合が低く、また提供先も警察のみであり、災害時に名簿が活用でき、迅速に避難誘導できるのか非常に不安。そもそも情報提供に同意されていない方はその認識なのか、名簿についても各自治会等も提供してもらえないと思っているのではないのか。隣接する大洲市は100%、八幡浜市は条例によって「拒否しない限り名簿を提供する（逆手上げ方式）」を導入し、100%の共有を実現している。日頃からの備えが必要であり、各支援者や行政など関係者において議論を深めていただきたい。